荒尾市立府本小学校　校長便り　№８３

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和８年３月１３日(金)

徒然

先日、若い先生方と談笑していると…「啓蟄って知ってる？」「…」若い先生方が知らないという現実…。ということは…、もしかしたら保護者の皆様にも「啓蟄」をご存じない方がいらっしゃるのかもしれません。まさに世代間ギャップですね。「二十四節季」とは１年を春夏秋冬の４つの季節に分け、さらに各季節を６つに分割して２４の期間（節気）に分けた、古代中国で考案された暦です。「立春」や「夏至」も二十四節季の１つです。現代でも農業、行事、季節の挨拶の指標として定着しています。啓蟄は無視や動物が陽気に誘われ、活発に動き出す頃です。令和８年度は目前です。活発にいきましょう。

分かっている人は分かっている　～スマホとの付き合い方～

スマホの功罪については以前のお便りで何度か紹介しました。持たせる持たせない関係なく、どのような扱いをすればスマホ等のタブレット端末に振り回されないで済むかを、分かっている人は分かっています。上手に使っている人たちには、やはり家族の中でも取り決めがあって、それが機能しているのです。扱う時間や場所、内容についても細かく決められており、それを家族全員が守っています。反対に、分かっていない人や家族は、場所、時間、内容等に関係なく使います。家族団らんの時間にスマホをいじる子をどう思いますか。また、スマホ依存の大人が食事の時間に会話もせず、スマホをいじりながら食べている、子どもは大人に「おかわり！」とも言えず自分のご飯のお代わりに行く、というようなことも起こっているとかいないとか。

偉そうなことばかり言っていてはダメですね。我が家はどうしているかというと、先ず、娘（現在２８歳）には、彼女が高校入学と同時に持たせました。私との間で契約書（裏面参照）を交わし、その中で細かな取り決めをしましたね。でも、それでも契約書の内容が徹底できず、持たせない方が良かったかなと感じる場面もありました。双子の息子（現在２３歳）には高校入学直後は持たせていませんでした。まぁ、部活をやっていたので、その連絡のために必要だと親懇され、妻にも同様にお願いされ、初めはタブレット端末だけ、しかも、居間でしか使わないということを約束して使わせていました。それが良いのか悪いのか、その時の状況によって判断は変わってきます。子ども自身にも思慮分別というものが備わっていく必要がありますね。その後、高校の学習サポートで必要だということを、本人でなく妻が訴えてきましたので、配付された文書等を精査し、高１の夏にスマホを持たせました。娘のような契約書は交わしませんでしたが、彼らにはスマホよりも楽しく部活動に打ち込んでいましたので、その必要性も無かったようです。現在の高等学校では、スマホ等のタブレット端末ありきの学習や進路指導が行われていますので、持たせて、ルールを徹底していく局面に来ています。頭が痛いですが、最善策を考える必要があります。

よくこんな話を聞きます。親のスマホを使って、友達同士でラインをやっている…。色々な事情があるとは思いますが、これは如何なものでしょう？こういった場合、私の経験的には必ず早い時期にスマホを持つことになります。どうにかすると小学生時代から誕生日のプレゼントに買ってもらってスマホを持つことになり、危険性を理解することなく、写真を送ったり、動画をアップしたりするようになります。そして思春期、当然のように異性に興味を持ち始め、あらぬ方向へと進んでいきます。そうなると、もうどうしようもありません。将来までも潰すことになるのです。怖いですね～。だから私は子ども達にこう言っています。「生身の人間と有意義なコミュニケーションできるようになることが大切だ」と。

シリーズ「自分を語る」＃８３

勤務初日のことでした。私の隣に座っているスペイン語の通訳さんが、一言、「澤田さん、県費留学生のホジョキンコウフヨウコウを制定してください。そうしないと、留学生が生活できませんよ。」ホジョキンコウフヨウコウ、そう、補助金交付要項です。県費留学生の生活費は、熊本県の予算の中より、私が担当した事業に割り振られたお金から、県費留学生に対して「補助金」として与えられるのです。交付要項を制定しないとお金が出ませんので、同じ島の職員に聞きながら、何とか切り抜けました。補助金って、行きつくところ、税金です。血税ですね。何故大切な税金を外国から来た留学生や研修員に与えるのか？それは、この事業によって将来的に熊本に効果がもたらされるという展望から与えられるのです。注ぎ込んだ予算と経済効果がどれだけ上がったのかを“費用対効果”といい、経済効果が上がらない事業は徹底的に削られていきます。中々に厳しい現実です。さて、費用対効果、働いている者ならば誰もが考えなければなりませんね。私も日々考えさせられます。自分のパフォーマンスがどれだけの効果を生んでいるのだろうか…ってね。

この、補助金交付要項を制定した日だったと思います。ブラジルから２名の県費留学生が来日しました。本来ならば、担当者の私が空港まで迎えに行かなければなりません。しかし、あまりにビギナーだったため、隣のスペイン語の通訳さんが福岡空港まで迎えに行ってくれました。てな訳で、私は国際課で待つことになり、延々、ファイルを読むことになりました。留学生の県庁到着は夜の１２時頃でした。いよいよ対面です。どちらも、熊本県人会に属する日系２世の方です。一人はエンジニア、一人は商社マンですが、若くしてエリートです。エンジニアの方は宗城大学工学部、商社マンの方は熊本県立大学総合管理学部で学んで頂きます。大学の選定に当たっては前任者（澤田１号）が行っていましたので、その点について苦労はありませんでした。また、宿舎についても同じでした。しかし、大学のすぐ近くで暮らすため、２人の地理的不便さがあったため、私はしばらくの間２人のお抱え運転手を務めました。熊本の生活で淋しい思いをしないように、ほぼ毎日、顔をあわせるようにし、大学で友達ができるまでは私が友だちのようなものでした。でも、気になりませんか？言葉は通じたのか？ってね。その点は、私澤田、英語ペラペラですから!?　ってうそです。２人はブラジルの県人会の中でも日本語を話しており、日常会話では何の不便も無く、コミュニケーションできました。お陰で、私は日本語のみ、しかも熊本弁だけで会話していました。

２人を受け入れてからも、まだまだ試練は続きます。しかも、これから、韓国の研修員の受け入れも並行して行っていきます…。（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）